

2009年5月30日勉強会

佐伯啓思『自由と民主主義はもうやめる』

発表者：十河（晃）（代理：久富）、安達、嶋田

参加者：嶋田（研）・岩瀬・石堂・安達・古川・中山・十河（祐）・久富

記録者：久富

## 第一章

○この本を読んで、少し「左翼」「保守」の定義があいまいで納得できないところがあるという意見が出た。そもそも本来の保守とは・・・？⇒「自由・平等・人権の普遍性」という観念を疑うものである。先生はパークの保守とアメリカ型保守を使い分けているのでは？という意見も。しかしそう考えるとアメリカには保守がないということにならないかという意見が出た。歴史がないのに保守と言えるだろうか。

- ・ 大統領夫人の中絶問題など、プロテスタンティズムの理念を信奉している人々はどうか。保守と言えるのでは。⇒そこまで言うならキリスト教の理念などを保守ということはできる？

- ・ 何を「保守」するかが問題となる

アメリカはそもそもが進歩主義の国なので、保守しようとするとは進歩主義との距離がとれないのではという意見が出た。自由・平等・人権に対するものではなくなる。

○ 「ニヒリズム」への結びつけ方が強引過ぎないかという意見も。

P90 “人間はどうしたらもっとキリっと・・・”

太宰治『トカトントン』・・・ニヒリズムを提言しているのでは。

現在の大学生の状況と重なりはしないか。

- ・ では、ニヒリズムがなかった時代はあっただろうか。  
⇒キリスト教的理念が人の心に根付いていた時代・・・

では日本はどうか？

ニヒリズム・・・“たしかなもの”を失った時代・・・個人なのか全体なのか？

例えば、ドストエフスキーの娼婦のソーニャの行き方はニヒリズムではない。

○ 日本はキリスト教圏じゃないから観念として捉えづらいのではという意見が出た。  
しかし江戸時代の大半はニヒリズムでは・・・という意見も。

○個人のニヒリズムを全体のニヒリズムとすり替えていないか。

学生運動・明治維新など、一部をピックアップしすぎているのでは。

「共通の規範」・・・学生運動にしる、明治維新にしる、自分以外の誰かも自分と同じよう

な認識を持っていると思える状態ではないか。

⇒このような状態は、まだニヒリズムに対抗できていると言えるのではないかという意見が出た。

## 第二章・第三章

○ 先生が言うところの“ニヒリズム”とは

ニーチェの思想に対して・・・

永劫回帰の中で価値を見出していける超人がいるとしたら、社会も良くなるのでは。誰でも可能性は持っているけれど簡単にはできない。

- ・ ニーチェは永劫回帰を繰り返すが、仏教はそこからの解脱を目指すところがおもしろいという異見が出た。
- ・ しかし・・・人生の意味がわかったところでそれが幸せだとは限らないという意見も。

## 四章

○ 「アメリカ的」なものへの精神的従属

“アメリカ的”より“西洋的”のほうが良いのでは。

先生は反米保守なのでアメリカと書いたのだろうが・・・もう少し西洋の思想など、そういったものを象徴しているのではという意見が出た。

⇒「アメリカ的」・・・団塊の世代は特にその傾向が強いように思える。

まさにアメリカが父で自分たちが息子であるかのような・・・

○ 新米保守について

- ・ 自由や民主主義がなくなると考えればどうか・・・

やはり自由や民主主義がないといけないと思う。自由に対する魅力には抗いがたいという意見が出た。

- ・ ほかの国を理解するとはどういうことか。国と国との関係は利害関係しかないと考えるので、そもそも理解できるのか・・・
- ・ 国と国との関係は個人と個人からはじまるので、異文化交流も大切だと思うが、国と国との関係を考えてなぜかギクシャクしてくる。

⇒国が国民を守る義務があるから？

- ・ 民主主義の制度があるから国力が相対的になる。基本的に国民に受け入れられる政策をとっていくので利害関係に発展していくのでは。

○ 先生のコラムで・・・

二大政党について。イギリスなどは階級社会的下地がある。日本はそれが無いから同じ親

のもとでの兄弟げんかにしかならない。

○ 四つの国力について

文化を国力にするとはどういうことか。

文化や価値をどのように国力に生かしていくかが問題。

## 第五章

○ 近代化をどう思うか？

- ・ 明治維新が原因とは思えない。⇒国際連盟を脱退したため、国際的な利害が生じた？
- ・ 植民地主義も終わりを迎えつつあった。
- ・ 有色人種に対する見方をぶっ壊した。

○ 先生の結論は・・・

国を守るために亡くなった人々や当時の状況を想像して引き受けること。

負い目を引き受けること。

⇒⇒最後に、自分たちとは直接関係ないけど、その人たちのことを想像してどう感じるかということなどについてメンバーで話し合った。

- ・ 戦争などを扱った映画の宣伝を見るだけでもう泣いてしまう
- ・ 銃や戦車などをかっこいいと思う  
⇒その銃や戦車などで殺される人のことは考えない？  
⇒それを言うなら洋服の毛皮のコートのウサギの毛などと同じことでは・・・
- ・ 「となりまち戦争」・・・戦争はあってはならないことだけど、自分の身にかかってきたら反対できないのは仕方がない。
- ・ いわゆる「戦記もの」についてなじみが薄い。国語の教科書でも被害者側（空襲の悲惨さや食べ物がなく飢えていく）の作品しか扱わない。⇒兵士や軍隊側の立場にたった作品が避けられている？ゴー宣の切り口が衝撃的だった。